
こども

勝目博

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「じどりも

【著者名】

佐々木千鶴

【作者名】

勝田博

勝田博

【あらすじ】
朝の学校。挨拶するがみんなは話に夢中。一番の仲良しも「ここに居た……。

教室に入ると、仲良しグループが既に集まっていた。

僕は鞄を机に放り投げ、みんなとこりこり駆け寄った。

「おはよっ」僕は元気に声を掛けた。

「おはよっ」「うみみちゃんが、はじめに返事をしてくれて、僕は幸せな気分になれた。

でも、こうちゃんは自分が話すのが忙しいらしい。

マー君も、チーちゃんも話に夢中だ。僕はみんなの話に耳を向けた。

「・・・でさ、それが結構おかしくて」「話を聞いていると、どう

しかもホラーらしい。

「ねえ、その映画、題名は?」「僕はこうちゃんに聞いた。

「うん?あー、おはよっ」「うみみちゃんはこっけり笑って、答えてくれた。

でも、僕には聞いた事のない映画だ。ママは怖い映画を見せてくれないからだ。

「でも、信じられない」チーちゃんが笑っている。マー君も笑い出した。

みつちゃんは話に溶け込めず、自分の席に戻ってしまった。

僕も戻るうとした時、こうちゃんが僕に聞いた。

「どう思う?今の話

「え?何の話?」僕は急いで近寄った。仲間に入れたと思つと嬉しかつた。

「もう、聞いてなかつたの?」チーちゃんが、面倒くさそう言つた。

「ごめんね」僕は仲間で居たから、謝つた。

「いいよ・・・。バンパイアはいると思つ?」「うみみちゃんが僕に言った。

つた。

「いるぞ」僕は声を張り上げた。

「なんで?」笑いながらみつちゃんが言った。

「だって、昨日の映画は、子供を作るのが大変だったんだぜ

「子供だつているぞ」ひつちゃんの馬鹿にした話し方に、僕はむかついてきた。

「でも、バンパイアは、血を吸われないと変身しないのよ」チーチャンまでもが認めなかつた。マー君は、僕の顔をじっと見ていた。その目は、僕を馬鹿にしているみたい……。

どうやら、僕一人が仲間はずれらしい。僕はみんなから離れ、自分の席に戻つた。

すると後ろからみつちゃんが、声を掛けてきた。

「みんなは知らないのよ。本当にいることを」みつちゃんはみんなを見込んでいた。

「そうだね。でも証明できないし……」僕はちょっと悲しくなつた。「もう少し大きくなつたら、一人で教えてあげようね」みつちゃんはいつも僕には優しい。

「そうだねみつちゃん。血の吸い方を、ママに教えてもらつたらね」僕は元気が出てきた。

「そうよ。身をもつて体験させてやるわ」僕とみつちゃんの目が赤くなるのを、クラスの誰も気がつかなかつた。そう、僕もみつちゃんもまだ子供だから、ママから貰うだけなんだもん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6033d/>

こども

2010年10月11日01時25分発行